

「世の終わりに、 私たちがなすべきこと」



純福音成田教会 担任牧師
日本フルゴスペル教団 広報理事

妹尾光樹

今回ISILがおこした日本人殺害事件は、今まで中東の出来事に対岸の火事のように思っていた日本人にも、自国が世界の大きな渦の中に巻き込まれていくように感じさせています。

この時代、私たちの信仰の規範となる聖書は何を語っているのでしょうか。聖書はこの世の終わりを語ります。その時には、中東を中心として世界に大きな変動があることを預言しています。マタイ福音書24章には、イエスのお弟子たちが“あなたの来られる時や世の終わりには、どんな前兆があるのか。”と聞きます。さらに黙示録をはじめとして、ダニエル書やエゼキエル書などにも、これから起こるであろう様々な出来事が啓示されています。現在、政治や経済だけではなく、キリスト教会も世界規模の大きな変動の時を迎えています。前世紀まで世界のキリスト教会を主導し

てきたヨーロッパやアメリカの教会の衰退が止まりません。一方、地の果てである極東、東南アジアの教会はリバイバルを体験しています。

日本はどうでしょうか。すでに教派を超えた新しい世代に大きなリバイバルのうねりを感じています。教派や教団、神学や伝統の枠を問わず、イエス様を心から求める人たちがその御顔を仰ぎ求めています。礼拝も式ではなく、三位一体の神との深い交わりとなっています。伝道宣教は、聖霊に押し出されて喜びをもってなされます。みことばも聖霊により生きた文字として躍ります。賛美も祈りも心からの感動があります。

イエスはマタイ25章で世の終わりには、すべての国々の民が御前で羊と山羊に分けられると言われました。ゲッセマネの園でご自身の時を前に祈られた時、眠っていた弟子たちに言われたことばを覚えます。“誘惑に陥らないように、目をさまして、祈っていなさい。心は燃えていても、肉は弱いのです。”

TPCの活動目的

- (1)閉塞感のある日本のキリスト教会に元気を与える
- (2)超教派として活動する
- (3)毎日、礼拝を捧げ、祈り会を行う
- (4)伝道、学びなどのために貸室を提供する